

様式1 令和7年度 山梨県立農林高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	県内唯一の伝統ある農業専門高校として、「生命・環境・食」を育む教育を主な柱として、新しい時代に必要となる資質・能力を育成し、地域の産業人材を地域とともに育てる。								
本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導の方法を工夫し学びへの興味・関心を高める 2. 生徒一人一人を進路実現に導く 3. 信頼関係に基づいた生徒指導を行う 4. 心身の健康を図り、安全教育を推進する 5. 特色ある教育活動を推進する 								
達成度	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>ほぼ達成できた。(8割以上)</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>概ね達成できた。(6割以上)</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>不十分である。(4割以上)</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>達成できなかった。(4割以下)</td> </tr> </table>	A	ほぼ達成できた。(8割以上)	B	概ね達成できた。(6割以上)	C	不十分である。(4割以上)	D	達成できなかった。(4割以下)
A	ほぼ達成できた。(8割以上)								
B	概ね達成できた。(6割以上)								
C	不十分である。(4割以上)								
D	達成できなかった。(4割以下)								

山梨県立農林高等学校 校長 米山 正仁

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

本年度の重点目標		自己評価	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	特色ある学校づくり	生徒会、農業クラブ・家庭クラブの活動をおとした向上心、探究心、自主・自立、連帯の精神を養う指導の実践	生徒アンケートによる生徒の生徒会・農クラブ活動への満足度の肯定的回答
		スペシャリスト育成のための積極的な資格取得指導の推進	学科生徒の資格取得割合※産業教育の充実(農業・家庭)アグリマイスター顕彰制度への取組と成果
		課題解決能力を高めるためのプロジェクト学習を推進	農業科教諭の実践割合(実践数/教諭数)
		「先人に学ぶ」事業により、本校の歴史・伝統、また多様な文化を理解する指導を推進	俳句・川柳への取組・地域資源の活用や教材開発数
	高大連携の推進	高大連携カリキュラムの実施状況(食品科学科における山梨大学、山梨学院短期大学との連携)	「地域と農業」履修者の農林大学校進学率
2	学習指導	「個別最適な学び」・「協働的な学び」の実践	ファシリテーターとして授業を組み立てられる教員数 BYODを柔軟に活用できる教員数
		目標に準拠した指導と評価の推進	指導と評価の計画書作成数、生徒による未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクトの分析結果
		ICT機器活用の推進	「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」における生徒のICT活用を指導する能力を持つ教員の割合
		学習習慣の定着と基礎学力推進	「学校評価アンケート 生徒」における「毎日、自ら家庭学習の時間を確保し、計画的に取り組んでいる」肯定的回答
3	進路指導	体験的な教育活動をおして自己の在り方、生き方を考えさせる指導	保護者説明会や個別懇談等による早期の進路決定につながれたケース数、難関の進路実現を果たした数
		組織的・体系的なキャリア教育を実践	インターンシップ・デュアルシステムの体験が進路実現につながっている、という生徒の肯定的回答は9割を超えている。
		学年・学科・進路係の緊密な連携の実現	「学校評価アンケート 生徒」における「学校では、進路について考えるための情報が、タイムリーかつ積極的に流されている。」肯定的回答
4	生徒指導	ホームルームにおける集団づくりを充実させるとともに、全教職員の意思疎通のもと、指導体制を確立	SHR等における集団づくり指導の実践数、校内研修の満足度
		いじめの未然防止、早期発見、早期対応の徹底	「学校評価アンケート 生徒」における「学校では、いじめ防止(アンケートや相談)や人権に関する指導が適切に行われている。」肯定的回答
		共感的な人間関係を築くため教育相談体制の充実	悩み相談等に関するアンケート実施、アンケート分析結果に基づく問題解決数
		基本的な生活習慣確立に向けた指導の充実	「学校評価アンケート 生徒」における「学校では、健康管理や悩み相談に関わる指導が「いねい」に行われている。」肯定的回答
5	道徳教育 安全教育	夢と感動のある学び舎の実現に向けた教育活動の企画(生徒による主体的活動場面の創出)	生徒が中心となり実現できた活動数とアンケートによる満足度
		危機管理能力の定着に向けた取組の充実(交通安全・防災・防犯)	特色ある行事の企画・立案・実施、アンケートによる満足度
			「学校では、健康管理や悩み相談に関わる指導が「いねい」に行われている」とい肯定的回答は約91%である。 生徒が中心となって実現できた活動については、ほとんどない。生徒の主体的な活動、生徒会役員等の積極的な活動は課題がある。 防災キャンプは2年目であるが、生徒の参加したこと、学んだこと、体験できたことの満足度は高い。

学校関係者評価	
実施日 (令和8年2月12日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> ●実践的学びの理解をさらに深める仕組みの整備 ●事業や行事の取り組み内容が生徒に十分咀嚼されていない場合があるため、事前の目的共有、事後の振り返りの体系化など、学習効果を高める指導の充実を。 ●国際交流の参加者増に向けた周知強化 ●国際交流の価値は高いが参加者が少ないため、説明会実施、体験談の共有、経済的支援策の検討など参加促進策の検討を。 ●高大連携の成果の見える化 ●高大連携の取り組み内容や効果が十分に伝わっていないため、成果事例の発信、活動紹介の拡充など、理解促進のための情報伝達を。 ●情報発信の統一強化 ●生産物の販売情報、実習風景などの情報が分かりにくい場合があるため、HP・SNSの整備、動画活用、発信内容の標準化により学校の魅力を明確化するよう。 ●多様な生徒を支える支援体制の強化 ●様々な事情を抱える生徒への個別対応の充実が求められているため、個別支援体制の強化、活動を支える教員サポートの整備。
3	<ul style="list-style-type: none"> ●ICT・BYOD活用の推進体制の強化 ●活用教員数が増加してはいるが、効果的な使用方法の研究も課題であり、ICTに強い教員・生徒をリーダーとし、端末活用支援・活用事例の共有を。 ●主体的学習者の育成 ●指示待ちから自発的な学習姿勢への転換が必要であり、学習計画・自己管理を教える時間を設け、学習ログ、自己管理ツールを活用して習慣形成を。 ●基礎学力の定着と教員負担のバランス ●基礎学力は依然として重要課題だが、授業改善を継続するための教員負担軽減が求められるため、ICTを用いた学習、教材共有化による、教員の負担軽減と学力向上を。
4	<ul style="list-style-type: none"> ●相談体制の強化 ●生徒が悩みを気軽に相談できる環境をさらに整備する必要があるため、相談先の明確化、相談時間・場所の確保、外部専門家との連携強化を。 ●リアルなキャリア教育の不足 ●成功例だけでなく、困難を乗り越えた経験談を聞く機会が求められているため、特に困難を克服した卒業生の話を聞く機会を設け、進路選択の現実や理解を深める。また、企業との連携を強化し、体験内容の質向上を。 ●心身のレジリエンス育成 ●社会に出ても「潰れない」心と体を育てる教育が必要であり、ストレス対処法、自己肯定感向上、健康教育などのプログラムを導入しては。
4	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめの早期発見・具体的対策 ●いじめに関する課題意識があるため、初期対応の迅速化が必要であり、アンケート等による実態把握の継続、共有体制の構築を。 ●保護者との連携の丁寧さを向上 ●小中と比較して連絡量が少ないと考えられ、情報発信の強化が必要であり、BLEND・電話連絡の充実、丁寧で安心感のある対応を。 ●安全指導の徹底 ●自転車通学に関する道路交通法改正への対応が求められるため、ヘルメット着用指導や危険行為防止の徹底を。
3	<ul style="list-style-type: none"> ●自転車ヘルメット着用の徹底不足 ●ヘルメット着用の理解促進と家庭連携の強化ため、意義を丁寧に説明し、家庭からの声かけを促す仕組みづくりを。 ●相談体制のさらなる強化 ●相談窓口の明確化、スクールカウンセラー活用、丁寧な対応の徹底を。 ●家庭との連携による生活習慣の定着強化 ●家庭・学校・地域が共通理解をもち、継続的な働きかけを。 ●読書習慣の不十分さ(朝読書の評価が低い) ●図書室と連携し、これまで以上に興味を引く書籍の紹介や読書活動の活性化を。